

こころとからだの健康情報誌

2023

冬

# ぼらんす

特集

早めに準備したい  
花粉症対策

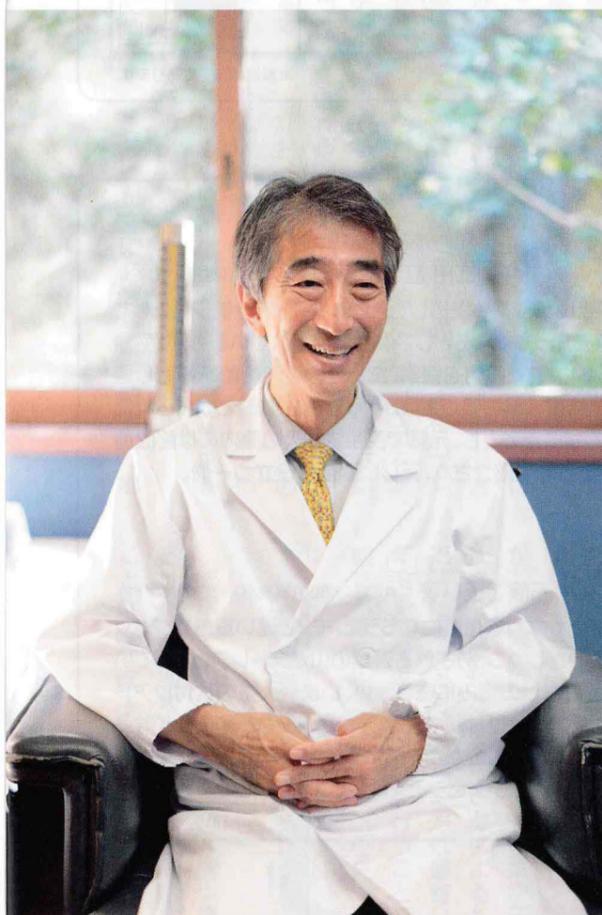


コロナウイルス感染症やその後遺症にも漢方薬は効く？

## 漢方薬・漢方医療を上手に活用しましょう

体にやさしいというイメージの漢方薬。その一方で、個人個人の症状や体質などに合わせて処方薬を選ばないと、十分に力を発揮しないともいわれています。漢方薬・漢方医療を上手に利用するために知っておきたいことを渡辺先生に伺いました。

大塚医院(漢方専門外来)院長 渡辺 賢治 先生  
慶應義塾大学医学部客員教授



## 漢方はコロナのような感染症にも効果がありますか？

一般的に漢方は慢性疾患の治療に向いていて、急性の感染症などには効果がないと思われがちですが、これは誤解です。古代中国生まれの漢方は、感染症と闘いながら育まれてきたようなもの。ですから、実は感染症の治療は漢方の得意分野です。例えばかぜやインフルエンザに対して「葛根湯」「麻黄湯」「大青竜湯」などを処方しますが、これらはおよそ1800年も前に中国で書かれた医書『傷寒論』に出てくる処方。急性の熱性感染症に対する治療法が、症状の経過とともに事細かに記されています。現在でも治療原則はまったく変わっていません。

## 現代医療と比べた漢方の特徴的な違いとは？

現代医療が「病名をつけて、その原因を正して治療に導く」というアプローチをとるのに対して、漢方医療は「生体のシステムを利用して、結果として治療に導く」という発想です。

コロナ治療で説明すると、現代医療は原因となるウイルスの増殖を止めるために、薬やワクチンで増殖の過程のどこかをブロックしようとしています。それに対し漢方は、主としてウイルスを迎え撃つ私たち自身の生体防御機能を

強化することで、結果としてウイルスをやっつけるのです。われわれの体は、病原微生物に負けないように進化の過程で獲得した、さまざまな生体防御能が備わっています。病原微生物が入ってきて、まず働けるのが自然免疫です。自然免疫はその病原菌への精度は悪いのですが、幅広く生体を防御してくれます。次に獲得免疫によって入ってきた病原微生物を精度よく死滅させます。漢方はまず自然免疫を誘導しますが、体の中で猛烈なスピードで増殖するウイルスに対しては、少しでも数の少ないうちに漢方薬を飲み始めることが重要です。

ウイルスが変異するとワクチンは変えていかなければなりません。漢方の場合には主として生体側に働くので、変異しても治療原則は変わりません。抗ウイルスのように耐性ウイルスを作らないのもメリットとなります。ですから漢方は、今後想定される新たな感染症に対して、新薬や新しいワクチンがでるまでの時間稼ぎとして、有効に活用できると考えています。

は、病原微生物が熱に弱いからで、発熱そのものが病原微生物の増殖を抑えることができるからです。それに加えて体温が上がると白血球の動きが活発になって、侵入したウイルスなどの外敵と戦う作用が高まり、免疫機能も高まります。西洋医学だと熱は「悪いもの」と捉え、すぐに解熱剤を使用します。患者さんも「解熱剤ください」という人が多いのですが、漢方では「上手に熱を利用」します。『傷寒論』でも「体温を上げることが治療原則の一つとして重要視されています。高齢者や虚弱な人では発熱する力が弱く、病原微生物の増殖を許してしまい、重症化しやすく、熱が出ない方がより深刻なのです。漢方薬を服用すると一時的に熱が上がり、その後スッと下がる人が多いです。また漢方では、下痢や嘔吐なども安易に止めてはいけないものとされています。ウイルスや細菌を体外に排除するための、生体が持つ仕組みだからです。事実、ノロウイルスは下痢をするだけでしたら治ってしまいます。

そして最も大切なことは養生です。漢方というと漢方薬をイメージする人が多いと思いますが、漢方医学は「薬」「鍼灸」「養生」という3つの柱で成り立ちます。漢方医学は未病医学で、「正気(体の防御力)を高める」ための養生をとくに重視します。まずは持病を治し、睡眠、栄養、運動などの生活習慣の

## 漢方治療を上手に受けるポイントとは？

発熱して体温を上げることも、病原微生物との闘いの長い歴史の中で生物が獲得した生体防御の一つです。それ

が獲得した生体防御の一つです。それが獲得した生体防御の一つです。それが獲得した生体防御の一つです。

それが獲得した生体防御の一つです。それが獲得した生体防御の一つです。

Kenji Watanabe

慶應義塾大学医学部卒、医師・医学博士。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室、米国スタンフォード大学遺伝学教室、北里研究所(現・北里大学)東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授を経て、1931年に開設された漢方専門医院、修琴堂大塚医院院長に就任。日本内科学会総合内科専門医、日本東洋医学会漢方専門医。横浜薬科大学特別招聘教授、慶應義塾大学医学部漢方医学センター客員教授、WHO医学科学諮問委員、WHO伝統医学分類委員会共同議長、神奈川県顧問、奈良県顧問、漢方産業化推進研究会代表理事、日本臨床漢方医学会副理事長等を兼ねる。

## 【※漢方専門医】とは

医師免許(西洋医学)をもち、さらに高度な漢方の知識・技量・経験が認定された医師。国内の医師約30万人のうち漢方専門医は1%に満たない2千人強です。例えば生理痛がひどくて漢方治療を希望する場合は、婦人科医であると同時に漢方の専門医である医師を探すのがよいでしょう。

漢方専門医検索 [https://www.jsom.or.jp/jsom\\_splist/listTop.do](https://www.jsom.or.jp/jsom_splist/listTop.do)  
漢方治療機関検索 <https://kampo-ikai.jp/doctor>